



1日ツアー

チェンライ1日ツアー ゴールドントライアングル & 首長族



いざ! ゴールドントライアングルへ!

ゴールドントライアングルは、タイ、ラオス、ミャンマーの3カ国が国境を接している地域。狭い意味では、タイのチェンセーンから10キロメートルほど北の、メーコンとルアック川が合流するポイントを指す。以前はアヘンの産地として悪名が高かったが、現在では政府の撲滅政策もあって危険な雰囲気はなくなっています。周辺の国々の状況が安定してきたこともあり、中国からラオス、ミャンマーを経て、チェンセーンへと通じるコーン川(メーコーン)航路も開設されました。

タイ北部、ミャンマーとの国境近くで、「首長族」と呼ばれる人たちが住んでいます。この辺りは山岳地帯で、少数民族の村が点在しており、首長族もそんな少数民族なのですが、じつは首長族というのは民族の名前でないです。カレン族などの一部が、女性の首を長くしていたために、そのように呼ばれるようになったようです。

ツアーの旅程

- 1.AM 7:00 ホテルホテルへお迎えに上がります。
- 2.メーカチャン温泉温泉で休憩
- 3.純白のお寺”ワット・ロンクン”訪問
- 4.山岳少数民族、ヤオ族・アカ族の村を見学
- 5.カレン首長族の村を見学
- 6.ご昼食
- 7.ミャンマーとの国境の町、メーサイへ。
※オプションツアーA.....橋を渡ってミャンマーへ入国
- 8.ゴールドントライアングルへ
※オプションツアーB.....メコン川をボートで渡り、ラオスへ上陸
- 9.帰途中に休憩を2回ほど致します。簡単な食べ物を買することができます。
- 10.PM 9:00 チェンマイへ帰着、ホテルホテルにお送り致します。



ご人数	お一人様当り価格	送迎
1名様	5,580B	ミニバン/ワゴン車
2名様	3,260B	ミニバン/ワゴン車
3名様	2,470B	ミニバン/ワゴン車
4名様	2,350B	ワゴン車
5名様	2,070B	ワゴン車
6名様以上	お問い合わせ下さい	ワゴン車

※お子様料金について：大人料金の70% または子供2名様で大人1名様分となります。子供料金は3歳～12歳までのお子様が適用されます。

□ 料金に含まれているもの
車・ガソリン込み/日本語ガイド/昼食代

□ 料金に含まれていないもの
お飲み物/オプションツアー/夕食

※ ツアースケジュールは状況により前後する場合があります。

オプション	料金	備考
オプションツアーA (ミャンマー入国)	700B or 950B/1名様	市場散策 /市場+寺院
オプションツアーB (ボートトリップ)	700B/1名様 2名様以上 450B/1名様	-

☆このツアーの見所☆

メーカチャン温泉



売り歩く売り子の女性も多数いますよ。

チェンマイとチェンライを結ぶ国道118号線の間地点にあり、観光客の休憩場所としてちょっとした賑わいがあります。足湯もあり入料は無料！温泉卵作成キッドを

純白のお寺『ワットロンクン』



現在の建設・増築中で、また敷地内にはチャルーンチャイ氏のギャラリーがあり、それらの収益金で建設費を賄っています。

ワット(タイ語で寺院)と言ってもお坊さんは一人としておりません。。。チェンライ出身の美術家、チャルーンチャイ・コーシピバット氏がデザインした純白、モダンスタイルのいわゆる美術品？です。

国境の町『メーサイ』



常に活気があり、まさに鉄火場といった感じです。この町で売っている商品はバンコクはもとよりチェンマイの販売価格よりもかなり安く、要チェックですね！

国境を貫く大通り沿いに町が発達し、その奥に堂々とした風格で建っているのが国境ゲートです。ここには出入国審査書や税関が入っています。ここを超えると橋があり、その先がミャンマーのタチレクです。国境の町というだけあって町は

ゴールドトライアングル



場所として名をはせましたが、現在では観光地として生まれ変わっています。民族衣装を着た近くの山岳民族の子供たちがモデルとして旅行者の写真に収まっています。道路周辺にはお土産物屋がたく並び、その近くにはアヘン関係のものを展示するオピウム博物館もあります。

(タイ・ミャンマー・ラオス三角地帯)チェンライ県のチェンセーンの町から約9kmの地点に、タイとラオスを隔てるメーコン(メコン川)とタイとミャンマーを隔てるルアク川が合流します。この3カ国の国境が接する場所をその地理的な形からゴールドトライアングルと呼ばれます。かつてはアヘンの栽培、交易の中心的な

カレン首長族の村訪問



カレン首長族はバトゥン首長族とも呼ばれ、言語や風習、生活様式の近さから大きくはカレン族に括られます。首長族と呼ばれるものの、正確には首が伸びているのではなく、幼少時から徐々に真鍮コイルを増やしていく過程で頸の高さが圧力

によって引き上げられ、真鍮の重みで鎖骨と肋骨が沈下し、肩の位置が下がることで首が伸びているように見えます。首長族はタイ、ミャンマーで合わせて30000人程と推計されています。

ヤオ族の村



のついた厚手の民族衣装を着て、頭には濃紺や黒のターバンを巻いているのが特徴です。自称は『ミエン』。美人が多い(?)といわれています。

タイ、ラオス、ベトナム、中国南部に住むヤオ族は、漢字文化の影響を強く受け、かつては1人前の男子は中国語の読み書きができるのが当然とされてきました。現在でも年長者は中国語で会話できる人が多いです。女性は赤い襟

アカ族の村



アカ族は、数々の装飾品を身につけることで有名です。子安貝の殻や銀で作ったボタン、数珠、ビーズで飾り、赤や黄色に染めた羽毛を縫い付けた帽子や民族衣装を身にまとっています。チベット高山地帯が起源で、中国の雲南省や北ビルマを経由してタイやラオスへ移住して来ました。

高床式住居の家に住み、先祖崇拜信仰を持つアカ族は、この1世紀のうちに中国南部から移住し、1905年にタイに最初の村を作ったとされます。父親の名前の一部を子供に代々命名していく父子連名法によって50代以上にわたる祖先の系譜を自分の名として持っています。タイ人からは『イコー(族)』と呼ばれ、その大半が北タイ・チェンライ県に住みます。